

提案趣旨説明書

<作品タイトル>

思い出の森 -2100 年を見据えた 30 年のまちづくり-

<提案の趣旨>

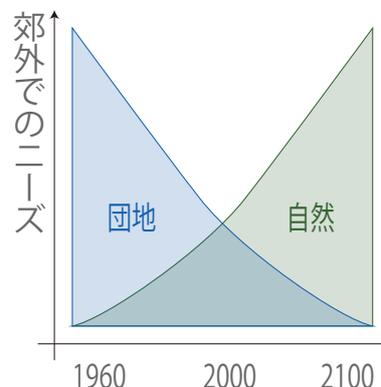
①はじめに

人口減少・少子高齢化の進む社会背景の中で、都市計画ではコンパクトシティの実現が求められている。コンパクトシティの実現のためには、郊外部での計画的なダウンゾーニングが重要である。本提案では 2100 年を見据え、2040 年に向けた真駒内の地域性を捉えた新たなダウンゾーニングの方法論を提案する。

②2100 年の姿とは

人口減少による郊外団地のニーズの低下、環境問題による都市近郊部の自然のニーズの高まりから、2100 年には真駒内の豊かな自然を活かし、団地を自然公園へと転換することを目指す。

しかしながら、真駒内団地はかつて選手村として利用された五輪団地をはじめ、街の歴史を継承するための重要な役割を持っている。ただ、団地がなくなるのではなく、この地に団地があった記憶を継承するような団地のダウンゾーニングによる自然回帰のあり方を考える。



③2100 年を見据えた 30 年間のまちづくり

ダウンゾーニングのための Volume 算出を、団地が作り出す環境圧力と人口減少率の 2 点から計画する。人口減少率と整合性のある容積率を算出し、そこに環境圧力の概念を取り入れた形態操作を行う。そうすることで、団地群の Volume によりコントロールされた植生をつくり出す。「その植生は団地がなくなったとしても団地があったからこそ出来上がった植生となり、真駒内団地の思い出を継承した森となるだろう。」

